

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・井上	写真・後藤
山番	NO.1966		
日時	2022年1月29日(土)曇・強い風		
山域	富士山・ニッ塚(1929m・山岳スキー)		
コース	長泉7:00-御殿場口洞門駐車場スタート8:00-ニッ塚上塚10:20-スキー滑降(300m)- 昼食10:50~11:00-スキー滑降と歩行-駐車場ゴール11:50-長泉着13:00		
標高差	上り・下り 洞門1285m~上塚1929m=644m		
藪漕度	なし		
難易度	非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい		
<b>ちょっと富士山でスキーをやってきました</b>			
参加者	後藤、井上=2名		

天気予報は曇り、午後から晴れ。前回から2週間ぶりの富士山での山スキー。ハイペースだ。前は初めてブラックダイヤモンドのスキー板を使い、うまく滑ることができたが、あとで後藤さんの撮影した動画を見るとターンはうまくできていたが、スピードが遅くカッコ良くなかった。今回はスピードを出してカッコいい動画を残したい。

車から富士山を見るとどうも、雪のない所が多いようだ。このところ地上でも雨がなく、2週間前の雪は溶けて少ないかもしれないと心配した。

洞門に着くといつものように関東からの車が6台ほど停まっており、今回も少し先の空き地に駐車した。洞門の駐車場には長野県ナンバーの白の軽トラックがあった。先週、22日に塩尻市から来た方が行方不明らしく、その人の車かもしれない。前後のライト、荷台のあおり板3枚、スペアタイヤがなくなっていた。心無い何者かが売れそうな部品を取っていったのではないだろうか。だとしたら、酷いことをするものだ。



遭難者車両??

森林帯を歩き始めると、頭上の木の枝にザックに付けたスキー板がぶつかり、そのたびに腰をかがめたりよけたりして歩く。樹林帯を抜けると雪は少なく、黒い地面が目立つ。少しは新雪が降っ

たように見られる。

雪が連続するようになるとアイゼンを着けた。雪の表面に赤い液体が落ちて凍ったようなものが見えた。もしや血？と思ったがそんなことはないだろうと話題にしなかった。

ゆっくり登っていると、クロスカントリー（クロカン）の人が、スキーを付けて走っているようなスピードで駆け上がっていった。やがて、その人は滑り下りてきて、また、私たちを抜かして登っていくのだった。



#### クロカン・レーサー

前方に大勢の人が見えた。遭難者の捜索隊かと思ったが、こんな場所に遭難者がいればすでに見つかっているだろうから違うだろうと話した。

曇り空。時々雲の隙間から富士山の頂上や宝永火口が見える。風が吹き、氷の粒がスキーブーツにぶつかりパチパチと音を立てていた。地表を雪が舞い、左から右へ流れていく。上塚と下塚のコルまで上がり、そこから左に巻きながら上塚の頂上を目指した。さらに風が強くなった。あっ、右足のアイゼンが外れた。調整がまずかったようだ。アイスバーンでなくてよかった。滑り落ちるところだった。

アイゼンの再調整をして取り付けている間に、後藤さんが先に登頂して待っていてくれた。風が強クホワイトアウトになりかけていた。スキーを装着している間に晴れ間が出た。晴れている間に下りようということになったが、私はストックの長さ調整に手間取ってしまった。後で聞くと、調



厳しい山だった

整内蔵型のストックは内部で凍り、雪山には向いてないようだ。緩めることもできず、伸ばしても締まらないのですぐに縮んでしまう。ここでもまた先に滑り降りた後藤さんを待たせてしまった。

今日は、2週間前よりカッコよく滑りたかったが、うまくいかない。雪質があまりよくないらしい。何度もバランスを崩し、一度こけた。3週間前の初登山で倒木の枝で怪我をした右すねはまだ治っておらずスキーブーツに当たるので痛い。ここに力が入らないとスキーをうまくコントロール出来ない。



登りで見えた大勢の人は下塚の北斜面で雪上訓練をしているようだ。その横を滑り降りる。ここでもカッコよく通り過ぎたかったが、バランスを崩して調子悪い。

下塚の下あたりまで滑って昼食。下塚の下の樹林帯にも3,4人いた。今回、カップヌードルをお湯で戻す時、雪の上に置いたらぬるくておいしくなかった。失敗。その間も、クロカンの人は往復する。

今日は強風なので1本だけにしようと、下山滑降開始。また、クロカンの人が登ってきたので話を聞いた。横浜からきたオノさん。ヨーロッパのオートルートのレースに出場したこともある。横浜から一番近い練習場がここ。

この日は下塚の分岐までを5往復し累計2200m登って滑ったので十分(半日で2200mも登れるのか?すごい)。スキー板はエッジありでシールをつけていて、片足が700g。持たせてくれたが信じられないくらい軽い。アルペンスキーと同じくらいの10万円弱とのこと。スキーブーツはカーボン製で定価が30万円。足首の可動範囲が広く歩きやすい。

我々のアルペンスキー用ブーツなんて動いているのかもわからないくらいなのに。重さは600g。スキー板とブーツ合わせて片足1300g。私のスキー板は片足2.7kg、ブーツは1.6kg、合わせて4.3kg。なんと3.5倍。ブーツだけでもオノさんの板を付けた片足より重い。私たちが1往復する間に5往復できるのも道具しだいかな。体力も相当だけど。顔を見ると唇に傷があり切ったようだ。登りの初めでみた、雪の上の赤いのは、オノさんの血だったのかもしれない。こけたのかな。

オノさんと別れ、雪が続かななくなるぎりぎりの所まで滑り、板を外して歩いて下山。駐車場近くではソリ遊びをする何組かの親子がいた。そしてまたもやオノさんと再会。板とブーツをかつぎ、運動靴で走って降りてきた。スキーブーツは高額なので外して下りてきたとのこと。

11:50分、駐車場着。12時には駐車場をでて、13時に長泉に到着。半日で富士山スキーをして帰ってこれるなんて贅沢だ。ちょっと富士山でスキーをやって来ました。

